

9月定例会 決算審査特別委員会

決算特別委員会（議長、議会選出の監査委員を除く18人の議員で構成、委員長は菊池巳喜男議員、副委員長萩野幸弘議員）は、決算等9件の議案について付託を受けて4日間の審議を行いました。

審議の結果、一般会計ほか7会計を全会一致で認定、その他1件を可決しました。



委員会の開催風景

シルバー人材センターの今後について

問 シルバー人材センターの配分金減少の要因は。

答 県のシルバー人材センターが事業を行っている結果、当市のシルバー人材センターの事業が減っているためだ。法律が改正され、特にも派遣事業については、資格を有する岩手県シルバー人材センター連合会に委託している。

問 そのために直接事業費が減るのか。

答 県の連合会から派遣された人の配分金については、一旦県に入り、そこから個人にいくので、個人への配分金は今までとそう変化はない。当市のシルバー人材センターに委託、発注される業務が減っているということである。

問 実際のシルバー人材センターの運営はどうなっているのか。

答 現段階の補助金のみでは運営は極めて厳しく、かなりの自助努力をしているが、それでも破たんしかねないと聞いている。新年度に向けて何らかの補助等を考えている。

問 会員数が減っている原因は何か。

答 健康上の理由や高齢化、定年後にハローワークに仕事を求めているという状況がある。

問 法改正等により、県連合会との兼ね合いで、逆に地元のシルバー人材センターが不利になるような状況になっている。地元の高齢者がしっかりと社会参加できる方向を目指すべきと考えるが。

答 遠野市シルバー人材センターは、当市にとっては

マンパワーを活用する一つの組織であり、シルバー人材センターの事務局の方々と、どういう仕組みで今後進めるべきかを現在検討している段階である。

野生鳥獣被害への対応について

問 ニホンジカの被害額が1億円を超えている。近隣市町村と県を巻き込んだ対策を講じるべきだが、現在の対策は。

答 そのとおりであり、県にも同様の要望書を提出している。今年8月1日に有害対策実施隊を立ち上げ、62名の隊員全員に非常勤職員として発令しており、さらに有害駆除が活発になると期待される。

問 市内の農地が電気牧柵だらけになってきており、特定の農地だけに被害が及ぶことになる。また、電気牧柵に獣たちが慣れ始めて

きており、農家では爆竹音のような機材購入の補助はないのかという話を聞く。このような兆しを受けて、先に次の手を打つことが必要ではないか。

答 防除、駆除、そして人材育成という3つの柱がある。24年度は国、県のモデル事業も入っているのですが、実施隊とともに、充実した駆除対策を講じていく。



ニホンジカの群れ